

～ 国立大学法人附属学校・特別支援学級ネットワーク 第3回研究会について ～

< 日 時 >

2017年8月10日(木) 10:30～

< 会 場 >

広島大学附属東雲小学校 中学校

〒734-0022

広島市南区東雲3丁目1-33 ☎ (082) 890-5120 Fax (082) 890-5114

< 参加予定 >

6校16名+広島大学教員1名、合計17名

< 内 容 >

○あいさつ、自己紹介、東雲小中学校施設見学

○実践報告(3校より) 11:20 報告:広島大附属 実践報告など

○情報交換(各校の近況報告をもとにして)

・各校のよさや特徴・今年度の研究や取り組み・募集人員や募集の仕方について・大学との連携など

○次年度の開催校等確認・意見交換

○懇親会

*第3回研究会問い合わせ先

広島大学附属東雲小学校 特別支援学級 梶山 雅司

☎ (082) 890-5120 (直通) Fax (082) 890-5114

～ 附属学校・特別支援学級ネットワークの「これまで・これから」 ～

< 経 緯 >

○1990年代後半頃

京都教育大学附属京都小中学校特別支援学級研究担当・藤村彰が、以前本校(京都教育大学附属京都小学校)に勤務していた時(17～18年くらい前)に、「全国で、附属校に特別支援学級をもつ大学が8大学しかない中、附属独自の共通する課題や各校の取り組みなどについて情報交換・意見交流を進めて、学び合っていきたい」との願いから、全学級に電話連絡をし、様子を聞かせていただいたり、資料を郵送していただいたりしました。(2015年度より7大学となりました。)しかし、情報交換をし始めてすぐの2002年度末、藤村は附属特別支援学校に転勤し、情報交換はそれ以上には進みませんでした。

○2013(H25)年度

京都教育大学附属京都小中学校特別支援学級研究担当・藤村彰が、京都教育大学特別支援教育臨床実践センター(相澤先生)の協力を得て、次年度に閉級する島根大学以外の6大学附属特別支援学級全てを訪問し、各学級の状況の調査と、ネットワーク作りについての相談をさせていただきました。全ての学級の先生方の合意を得て、ネットワーク作り・ネットワークを活かした連携協力を進めていくことになりました。

*島根大学は、2014年度末で閉級。(8大学→7大学)

○2014(H26)年度

- ・この年度より、研究協議会への相互参会だけでなく、学校相互に訪問し合い、施設見学・情報交換を活発に行いました。
- ・主に「インクルーシブ教育」「合理的配慮」などについて情報交換するために、アンケート調査・意見交流を進めさせていただきました。

○2015（H27）年度

「国立大学法人附属学校・特別支援学級ネットワークの教員が一堂に会して、各校の状況・取り組みについて報告し合い、交流し合う機会をもちたい！」という思いを多数寄せていただき、2015年8月10日「附属学校・特別支援学級ネットワーク第1回研究会」を、京都教育大学附属京都小中学校にて開催しました。（5校15名＋大学教員1名、合計16名）

*本研究会以外に、情報交換や研究協議会への参会などが行われました。

○2016（H28）年度

「附属学校・特別支援学級ネットワーク第2回研究会」を、奈良教育大学附属小・中学校にて開催しました。（5校15名＋大学教員1名、合計16名）

*本研究会以外に、情報交換や研究協議会への参会などが行われました。

○2017（H29）年度

「附属学校・特別支援学級ネットワーク第3回研究会」を、広島大学附属東雲小・中学校にて開催します。

< ネットワークの目的 >

- 各校の状況・教育課程・研究・取り組み、各校の特徴・よさ・課題などについて情報交換・意見交流を進めて、学び合っていく。そして、特に附属校に共通する悩みや課題について検討する。
あわせて、それぞれの地域の特別支援学級をはじめ特別支援教育についての状況についても情報交換する。
- ・他校について知ること、自校の状況・取り組みについて振り返り、よりよくしていく契機とする。
- ・忌憚のない意見交換を通して、高め合う関係を築いていく。
- 特別支援学級の存在意義・役割や、今後の展望について、共に考える。
- 「教大協」（日本教育大学協会）などの研究大会において、ネットワークからコンスタントに報告することで、特別支援学級の存在をアピールするように努める。そして、特別支援学校の教員を含め、幅広い立場の方々の学び合いの関係を結んでいく。

< 取り組み内容 >

- 地域が大きく離れているので、日常的にはメールなどを活用し、各校のトピックス・行事・研究などについて、通信・研究協議会の報告 pp などの文書を添付することで、発信し合い、知り合い、意見交換する。
*子どもレベルでの交流も考えられる。
- お互いに、質問し合う・教え合うようにする。
- 研究協議会・発表会の際には、できるだけお互いに参会し合うようにする。
- 日常の様子を見聞きしたり、じっくり・ゆっくり話し合ったりするために、研究協議会・発表会などの機会以外の日に、お互いに訪問し合うようにする。
*この取り組みの予定についても知らせ合い、可能であれば、他校の先生方も加わるようにする。
- 「教大協」（日本教育大学協会）などの研究大会についても、できるだけネットワークからどこかの学級が報告するようにする。
- 一堂に会する「ネットワーク研究会」を毎年1回開催する。

2017年7月27日

文責：京都教育大学附属京都小中学校 特別支援学級 研究担当：藤村 彰